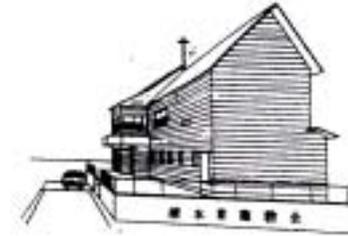


## 《祈禱会の聖書から》

私たちの教会では「聖書研究祈禱会」を水曜日の夜に行なっています。初めて教会をたずねられた方や、日曜日の仕事のために水曜日なら来ることができる方など、そして、欠かさず週の真ん中であって、静かな時を学びと讃美と証しの時とし、次の日からの、新たなる力の源を神様から求めようと、集っている兄弟など、そして子供達も含め、最近では10名ということもあります。もっと多くなったら、二つに分けたほうがよいかもしれません。いずれにしろ、守られていることに感謝しましょう。交代に御言葉から示されたことをメッセージとして語り合うことも素晴らしいことです。また祈禱会では、東部教区の「祈りの輪」を用い、それぞれの教会のことを覚え、祈りの課題としていますが、これも素晴らしいことです。よい伝統を絶やさず、更に恵にあふれた祈禱会にしましょう。さて、先週は“創世記”9章が開かれました。書いてあることの中身は、ノアの洪水の直後の神様と人間の関係です。このころ、どんなことがあったのか考えを巡らせてみましょう。びっくりするようなことが判ります。聖書は旧約聖書と新約聖書ということは知っていますが、この“約”というのは、“契約”の“約”だということが分かります。神は“すなわち、わたしは雲の中に、にじを置く。これがわたしと地との間の契約のしるしとなる。”と13節で語られているように、契約だからといって、契約相手である被造物と、相談の結果として、契約を結ばれるのではないのです。神自身が、神の行為として、もっと言いますと、救いの行為として“契約を立てられ”、その契約相手は、人間だけではなく、“さらに神は言われた、「これはわたしと、あなたがた及びあなたがたと共にいるすべての生き物との間に代々かぎりなく、わたしが立てる契約のしるしである。(12節)”と虹をさして言われたように、虹は印です。“神が契約を立てられたことを私たちが思いだすための”しるしなのです。“あなたがたは、生めよ、ふえよ”と有名な言葉が記されている箇所ですが(1節、7節)、ここで初めて神は、箱舟から出た者達に、食肉を許可され、代わりに、管理しなければならないのは、あなたがた(すなわち私たち)であることを記しています。“しかし肉を、その命である血のままで、食べてはならない(4節)”とあります。すべて自然は、私たちに奉仕するためにあるのではなく、私達は生かされている環境と動物をまもらなければならない責任も与えられたのです。

# 週報

2007年 7月 29日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。  
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

牧師 村上定幸